

コーパスによる『考える学習』の勧め (冠詞 a/the の理論と実際をワークショップする)

田淵 龍二^A

アブストラクト: 英語学習者の苦手の一つが冠詞である。原因には、複雑多岐なルールや慣習、地域的差異がある。そこでまず冠詞選択の法則を総体的に理解する集合論的捉え方(思考法)を基底に据え、次に冠詞の運用を習得するウェブコーパス学習法(操作法)を紹介する。映画コーパスによる映像と筋書きを通した a と the の使い分けを体験する検索法をワークショップとして学ぶ。内容は中高生の自律学習を目的としたものである。

キーワード: 英日対訳コーパス、共起検索、自律的学習、正規表現、冠詞

1 はじめに

冠詞は未だに議論が尽きない領域である。例外や慣用も多く、英語学習の難点であった。そこで最初に、集合論による冠詞理論を取り上げた。

次に、理論を活用するには練習が不可欠なことから、手軽に豊富な用例を提供するコーパスによる自律学習で、定着と運用力向上を目指す。

理論を知ったうえで用例に取り組む理論主導(theory driven)と、大量の用例を閲覧しながら理論を定着させる情報主導(data driven)の 2 つの学習法を結合させることで、考えながら学ぶ自律性の獲得を期待している。そこで最後に、自律学習を保証する要件を 4 つ記す。

- (1) 音映像による文理解補助
- (2) 文脈参照(用例前後や作品全体閲覧)
- (3) 母語による補助(日本語字幕)
- (4) オープンウェブ(無料、無登録、無制限)

2 集合論で考える冠詞理論

藤枝(2019)は「定冠詞の用例を Russel (1918) の理論から発展させた集合概念で説明できる」として図 1 の式を紹介している。主将は1人しかないので the captain(数式の 3 行目)となる。選手は9人いるので、誰か1人を指すときは a member である(5 行目)。外野手は an outfielder で、3 人全員を指すときは the outfielders(4 行目)

となる。the members は 9 人全員を指し、members は 2 人以上9人未満の選手を指す(6 行目)。

- 1 Let A equal the speaker's subjective set.
- 2 $A \supseteq B = \{x \mid P(x)\} = \{x \mid x \text{ satisfies the category } P\}$
- 3 $\text{the } P = B \text{ s.t. } |B| = 1$
- 4 $\text{the } Ps = B \text{ s.t. } |B| \geq 2$
- 5 $a P \in B \text{ s.t. } |B| \geq 2$
- 6 $Ps \subset B \text{ s.t. } |B| \geq 3; 2 \leq |Ps| \leq |B| - 1$

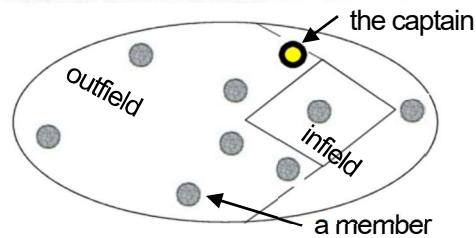


図 1 集合概念による冠詞理論;

藤枝(2019)を、野球チーム(守備側)として改変。1 墓手が 主将、がその他の選手。

3 コーパスで考え学ぶワークショップ

ここでは英日対訳コーパス CORPORA(<http://www.mintap.com/talkies/pac/>)を使う。600 万単語を収録し、映画(会話)と講演(語り)の 2 系統である。見出し語検索(go で went 等もヒット)に対応し、正規表現や共起検索も備える。

3.1 there's a A of the ~ に学ぶ

特定の人物を指している上に「of ~」と説明までしている名詞(名詞句)A に「a」を付けているシンを映画コーパス Seleaf で探してみた。

- 検索語: there's a * of the

A: ミント音声教育研究所

結果は以下の3件であった。

1. **There's a** **fat old captain of the** **guard**
down there ... / ロビンフッドの冒険 (1938)
2. **There's a** **saleslady** **free at the other end of the** **shop**, ... / 巴里のアメリカ人 (1951)
3. **there's a** **woman** **in there**, who used to know on which side **of the** **river** the ferryman lived. / アラビアンナイト (1942)

シーン2と3.は名詞Aにofが続くものではないので目指した構文とは違うが、いずれも後方参照的である。シーン1と3.では指示動作も伴っている。その様子を図2に示す。



図2 目線や指で指示する様子(左の2シーン)

リンク: <http://www.mintap.com/talkies/pacorpora.html?key%3Dthere%27s%20a%20%7E%20of%20the> あるいはQRコード

話者は特定の(definite)人を指しているが、不定冠詞a(indefinite)を用いている。これによりまた知らないと人だと相手に念押ししている。

3.2 a/the+A+of～表現に学ぶ

a/the+名詞+of～の表現から冠詞a/theの性質を学ぶ。検索キーは「(a/the) *1 of」とする。「*1」がAに相当し、任意の単語1つを意味する。TEDコーパスでのヒット数は46,184件であった。頻度上位3位までの名詞Aの出現数を表1に示す。a/the+A全体でのaとtheの出現頻度は1対2ほどだが、名詞Aの種類によって偏りが目立つことが見て取れた。名詞の属性によって冠詞を選ぶ

場合(LOTやEND)もあれば話者の都合で名詞(KIND)を選んでいると見ることもできる。

表1 a/the A of 表現での頻出名詞上位3

名詞A	a ~ of	the ~ of
1 LOT	3,749	2
2 KIND	563	669
3 END	1	908

最後におもしろい用例をひとつ紹介する。

4. Ali **the** **magnificent**. Ali, **the** **world's** **greatest acrobat** who himself was **the** **son of a son of a son of a son of an** acrobat. / アラビアンナイト (1942)

Aliを表す名詞(magnificent, son, acrobat)にはtheが付き、他の名詞(son, acrobat)にはa/anが付いている。曲芸師の中(an acrobatの集合)でAliが由緒正しいことを強調している。

4まとめ

冠詞選択は、冠詞が付く名詞の属性と話者の意図が大きな要因であると確認された。したがって学習の要点は以下の2つである。

1. 名詞の属性を知る
2. 話題の対象を集合的に想起する

たとえば表1から、LOTにはaが付き、ENDにはtheが付くとの属性があるのでそれに従いつつ、特段の意図がある場合にはthe LOTやan ENDも不可能ではないとわかる。KINDは利用意図に応じた適切な選択が求められることになる。

話者(書き手)は(名詞の属する)想起集合を自己中心に置くか、相手との共有性や社会性を重視するかでa/theの選択をすることができる。こうした冠詞選択の機微で、聞き手(読み手)の注意や関心を引き付けているのかもしれない。

引用文献

藤枝善之 (2019).「映画と集合で解く英語の冠詞」
ATEM 東日本支部大会口頭発表。